



### 想定外だった親の介護…介護者の若返り…しかし…

日本はすでに世界のどの国も経験したことがない超高齢社会となっている。

国民の4人に1人が65歳以上の高齢者である。高齢者の増加に伴って要介護（要支援）認定者数も増え続け、その増加は今後も止まらず、団塊世代が後期高齢者になる2025年には667万人になると予測されている。核家族化が進む中で、家族が高齢者の介護をする負担は計り知れない。

とくに、仕事を持つ子世帯にとって親の介護をどうするかは深刻な問題であり、まだ親の介護を担う必要がない子世帯であっても「うちの親もいつかは…」「仕事を辞めるしかないのか?」「お金はどれくらい用意したらいいのか?」など。

いずれ降りかかってくる親の介護という大問題に、不安や悩みの種が尽きることはない。

昔は「子どもが親の面倒を見るのは当たり前」といわれていたが、親のために、自宅で身を粉にして介護漬けの日々を送る状況を、美談とする風潮があった。しかし、それは介護の平均期間がまだ短かった時代のことである。

最近60歳代～70歳代で病気を患い、介護が必要となり、30歳代～40歳代の息子、娘が親の介護をしている。『ケアホーム希望』でも40歳代の息子、娘の介護が目立つようになってきた。

働き盛りの年代にとって、何年続くのか分からない、先の見えない親の介護に負担も不安も大きい。更に身体は病気で不自由になっても頭はしっかりしているため本人の要求は強い。

つい言いたくないことまで口にしてケンカなることも多くなってしまふ。

同居を試みるが、なかなかうまくいかず、兄弟がいても経済的に余裕がなく、『特別養護老人ホーム』への申し込みをしたものの、いつ順番がまわってくるかも分からない状況である。

一人暮らしを試みて『ケアホーム希望』のサービスを利用し、週5日の「通い」サービスと「訪問看護・介護・リハビリ」を週2回利用して、自宅での食事は配食サービス等で、色々なサービスを組み合わせると一人暮らしの生活をスタートさせた。「子どもが親の面倒をみるの」という、これまで当たり前であった時代は終わる…?!

それにしても、『特別養護老人ホーム』等でのユニット型は個室になり部屋代やら実費等の費用負担が多くかかるようになった。

少子高齢化を迎え、子世帯の働き盛りの年代にとって経済的負担がますます大きくなる。

働けど、働けど、税金で国の社会保障を補うことも難しくなる時代がきている。

### 介護と子育ての両立が難しい理由

介護と育児のダブルケア



精神的に疲れる



体力が持たない



ライフスタイルの変化



職場環境



# 祝 敬老の日

祝

・本日の献立  
 ・松茸茶碗蒸し  
 ・鯛の潮汁  
 ・本日のお造り  
 ・里芋 推茸の炊合せ  
 ・海老 舞茸 天婦羅  
 ・お赤飯  
 ・香の物  
 ・水菓子



乾杯!



わあ〜!  
美味しそう



まあ〜!  
今日は御馳走ね!



皆さん  
元気でこれからも  
頑張りましょう!



今年の「敬老会」は 感染防止のため 外食せず  
 2日間に分けて 3密を避け ソーシャルディスタンスを守り  
 調理師が「敬老会特別メニュー」を作り  
 「ケアホーム希望」ならではの楽しい昼食会となりました!



みんなで  
来年のオリンピック  
一緒に観ようね!



敬老の日に内閣総理大臣、東京都知事より賞状と御祝いの記念品が贈られてきました!

